

令和4年度 県中国研 第1回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和4年 5月25日（水）15：00～16：00
於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 伊藤

1. 会長挨拶（東中 石橋 佳之会長）
2. 令和4年度の活動の方向の確認
 - ① 令和4年度の活動に関して（本荘中 伊藤 雄樹主務）
 - ② 「中学校国語科研究部会飛騨大会」の振り返り（日枝中 熊崎 智文 飛騨大会実行委員）
 - ③ 研究の方向
全体研究構想・令和4年度の研究の方向について（不破中 小宅 陽久 研究総括）

話す聞く研究構想	（上石津中 片山 博寿	話す・聞く部長）
書くこと研究構想	（東可児中 梅田 佳宏	書くこと部長）
読むこと研究構想	（岐阜中央中 北原 章大	読むこと部長）
言語文化研究構想	（蘇原中 河合のぞみ	言語文化部長）

「ぎふこくご賞」の応募について（川辺中 細江先生 研究副総括）

 - ④ 令和4年度の夏季ゼミについて（白鳥中 上村 光一 総務部長）
 - ⑤ 会計部、広報部、情報部、編集部から
会計収支決算・予算について（東中 山田 優貴 会計部長）
情報部の活動について（北中 和田 光平 情報部長）
機関紙「ぎふこくご」について（西中 佐藤 広恵 広報部長）
3. ご指導
岐阜県教育委員会 学校支援課 加藤 尚子 課長補佐
4. おわりの言葉（2024飛騨大会実行委員長挨拶）
副会長（美濃） 高鷲中 永井 伸幸先生

令和4年度 第1回 研究部各部会

日時：令和4年 5月25日（水）16：00～16：30
於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長
話す・聞く 片山 博寿
書く 梅田 佳之
読む 北原 章大
言語文化 河合のぞみ

1. 自己紹介
2. 令和4年度の研究構想について
3. 機関紙「ぎふこくご」や中国研ホームページにどのようなものを機関紙「ぎふこくご」や中国研ホームページに掲載し、研究活動を還元していくかについて（見通しと分担など）

（終了後、各部会ごとに解散）

**With コロナ時代に
研究を「広め」「深める」ための
さらなる一歩**

**第1回役員会資料
岐阜県中国研
令和4年度活動について**

本荘中学校 伊藤 雄樹

With コロナ時代の「ニューノーマル」

令和2年度に猛威をふるった新型コロナウイルスの勢いは、令和3年度も変わりありませんでした。

このような予測困難な時代においても、飛騨地区の先生方に多大なるお力添えを頂き、8月3日に実施された「飛騨大会準備会」は、図1のように、県の研究部がオンラインでの参加、密を防ぐために、飛騨地区の先生方には、国府中学校・松倉中学校・日枝中学校・東山中学校の四会場に分かれ、研究の共通理解や、指導案検討・実践提案のプレゼン検討などを実施して頂きました。

さらに、九月に実施予定だった公開授業では、何度も何度も、日時調整を試みて下さったと伺いました。

10月22日、飛騨大会当日は、初のオンライン開催ということで、これまでにない県大会をご提供頂きました。

真摯にご準備くださっていた飛騨地区の先生方に、この場をお借りして、敬意を表します。

昨年度は、新型コロナの影響で中止となった「NHK杯全国中学校放送コンテスト」も、情報部が中心となり、本年度は、図3のように、オンラインによる審査会を実施し、生徒の活躍できる場を提供することができました。

with コロナ時代においても、このような場を設定し、研究を止めずにしてくださった全ての方に感謝申し上げます。

飛騨大会については、当日、アンケートフォームによる感想を頂きました。その一部を、次のページに寄せさせて頂きます。

今後このご意見をもとに、

「授業をどのように公開できるようにするか」という課題の解決と、

「移動なしで研究会に参加できる」

オンラインならではのメリットを生かし、対面での実施のよさと、オンライン開催のよさを併せもった、よりよい県大会の実施の形について、今後、中国研は考えてまいります。

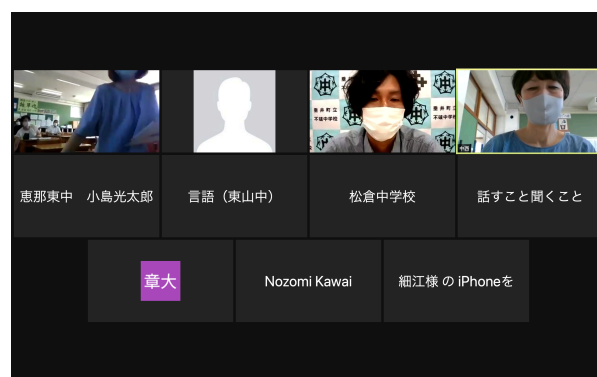


図1：8月3日 飛騨大会準備会の様子



図2：10月22日 飛騨大会当日の様子

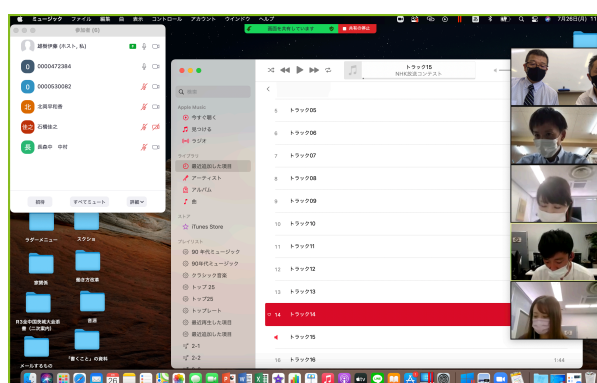


図3：NHK杯全国中学校放送コンテスト審査会の様子

アンケートフォームでお寄せいただいた、飛騨大会の感想（抜粋）

側面	感想・ご意見
運営面	○コロナ禍においてもオンラインを活用して開催できたことがまず良かった。今後、こういった形で会が行えるようになれば、遠方の会への参加や授業の参観も可能となり、出張の負担を減らしていける。 ○コロナ禍の中でも、研究実践を進めようとする先生方のご努力があり、飛騨の実践を、遠く西濃の地から拝見できたことに感謝をしております。 ○手続き等が非常にスムーズにできました。指導案をホームページで共有することにより、本校の国語科で中国研に所属していない職員も、いつでも見る事が可能でした。飛騨の先生方の尽力された実践が広がっています。ありがとうございました。 ○移動する必要がなく、十分な発表を聞くことができた。通信障害が起こることも一切なく、画面もスムーズに映っていたため、分かりやすかった。 ○アンケートフォームによる事前申込みがとてもやりやすかったです。これまで通りのメールでの申込みよりも楽にできました。 ○大会参加申込や指導案など、煩雑になりがちな部分が一本化されありがたかった。「zoom」による運営についても、事前に綿密な準備がされていた。 ●対面だと、気軽な雑談程度の交流で考えを伝え合うことができる。オンラインだとかっちりとした意見のみを話さなければならぬような雰囲気があるのが残念。 ●発表の中で使われたプレゼンや、当日のレジュメの資料もあるとよかった。 ●やはり授業を参観したかった。映像配信などがあるとよかった。 ●マイクとカメラをオフにしての参加だったので、発表者側の先生方がやりにくいのではないかと思った。
研究面	○小学校のうちにどのような力をつけておくべきかを考えながら参加させて頂いた。中学校の発表ではあるけれど、ぜひ小学校の先生方にも聞いて頂きたい内容だった。欲を言えば子供がどのような発言をしたのかが知りたかった。とにもかくにも、限られた条件の中での開催、本当にお疲れ様でした。 ○自分が実践していない単元の実践発表でしたが、とても参考になりました。自分もやってみようと思います。今回の実践発表で学んだことが使えそうだなと感じました。今後、自己の高まりを実感できるような授業を仕組んでいきたいと思っています。 ○話すこと聞くこと部会に参加しました。予定していた実践ではないとのことでしたが、実践発表と、指導者の先生のご指導が大変参考になりました。特に話すテーマを「身近で多様な意見が出る」、「生徒が自分ごととして捉えられる」という視点で考えて設定していくということは、明日からすぐ活用していきたいと思っています。 ○書くこと部会のお話で聞かせて頂いたように、生徒が、ただなんとなく書くだけでは、やはり力が付きづらく、生徒の意欲も出ないことが分かりました。そのために、場の設定をうまくすることで、意欲的に取り組むことができることも感じました。 さらに、場の設定を行う上で、付けるべき力を明確にし、それにあった設定をしないといけないことが大切だと思いました。 ○日枝中の川原先生が作成された指導案は、すばらしい内容でした。自分も「読むこと」の考えの形成について少しだけですが研究してきたので、この指導案の質の高さ、川原先生をはじめとするみなさんの努力の程が理解できます。 ○「語彙力を付ける」という言葉は簡単でも、具体を示すことは難しいことだと思います。それをテーマにして、実際に実践をされた言語文化部会に敬意を表します。 ●中国研は、岐阜県全体の国語科の向上を目指すものであると考えた場合、「どこの学校でも」というのは大切な部分だと思う。こうなると次は生徒や授業者を選ばず、なおかつ「働き方改革」に合致している研究にしていきたい。手間と効果のコストパフォーマンスを考慮しながら研究を進めていけると良いと思う。 ●県の構想を受け、飛騨地区が歩みを進められたことがよく分かった。参加した領域の発表しか聞けなかったのは残念。今後授業をどのように見ていただくのか考えていけるとよい。

2. 2024年実施の「美濃大会」に向けての動き

①今後の大会サイクルの確認

2021	→	2024	→	2027	→	2030	→	2033	→	2036
飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃	間2年	東濃	間2年	可茂	間2年	岐阜

★地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。（研究大会運営に関する規程より）

②今後の動き

① 引き継ぎの仕方について

コロナ禍においても飛騨大会を初のオンライン開催という形で実施して頂いたノウハウを、確実に次回大会の実行委員に引き継ぎができるように、日枝中学校 熊崎先生には、研究副総括として、次回大会への引き継ぎをお願いしてはどうか？同時に、飛騨大会実行委員長長の北陵中 中西史子校長先生にも、引き継ぎの際にサポートしていただく。

② 次回（美濃大会）の実行委員長・実行委員について

副会長（美濃）永井伸幸先生に実行委員長を兼任していただく。

後日永井委員長より、実行委員を指名していただき、引継ぎを行っていく。

③ 飛騨大会を美濃大会につなげるために その1（2月の総会で、実践発表者の方の発表）

今回の2月2日の研究部総会では、飛騨大会の実践発表者に、各部会で、実践発表をして頂く。

飛騨大会当日に都合で見ることができなかった方もいらっしゃることも想定されることと、来年度以降、この追実践を行う際の留意点や、オンラインでこういった県大会を行う際に、どのような発表を目指していくのかのご意見を頂くような研究部総会とする。

飛騨大会を美濃大会につなげるためにその2（令和4年度 夏季ゼミにおける実践発表者の方の発表）

上記の2月総会で頂いた意見を元にして、来年度の夏季ゼミをオンラインで実施し、今回の飛騨大会の実践発表者に、今回のプレゼンを、披露していただく。

令和6年度実施の美濃大会の引き継ぎをかねて、発表して頂く会とする。

以下は、今後3年間の夏季ゼミの見通しである。

令和4年度 → 飛騨地区大会の発表を見る会

（県研究総括・飛騨大会実行委員・県領域部長・飛騨地区実践発表）

令和5年度 → 美濃大会に向けての準備会（美濃地区での研究の共通理解など）

令和6年度 → 美濃大会に向けての指導案検討・実践発表検討

※令和4年度は県中国研が主催で、令和5、6年度は、美濃地区が主催とし、美濃大会の準備会を中国研夏季ゼミナールと兼ねる。

④ 令和4年度の具体的な研究の流れ

時 期	内 容	留 意 点
5月25日(水) 16:00～16:30 研究部各部会	① 研究構想の説明 ② 研究構想についての質疑応答 ③ 「新単元構想表」を部会で1部作ることの意図の説明 「新単元構想表」を各部会で1部作成することの意図 ① 県の研究部で検討を行って推敲・作成することで、精度の高い実践例をホームページや機関紙「ぎふこくご」に掲載し、県下に発信することができる。 ② 2023年度は、美濃大会に向けて指導案作成などを進めていく年になる。その時に、各部会の研究構想をより具体化した「新単元構想表」があることによって、美濃大会の授業者の先生に、より研究の方向を理解していただくことができる。 ③ 作成した「新単元構想表」をさらに推敲して美濃大会の授業にするのもよい。また、「新単元構想表」から得たインスピレーションをもとに、新たな単元を授業者の先生が考えていくのもよい。いずれにしても、美濃大会の授業を作成していく段階で、一つの実践があるため、ゼロベースではない状態で、美濃大会を迎えることができる。 ④ 今後の見通しの説明 ※「留意点」にあるように、せっかくお集まりいただいた部員さんに、新たな学びや、指導の引き出しが増えるような部会運営をしていただけるとうれしいです。	このコロナ禍にも関わらず、研究部会に所属してくださっている方々は、「学校外でも、国語について学びたい」という思いをおもちの方々であると捉えています。 その方々の思いに応え、会が終わった後に、持ち帰っていただけるお土産があるといいと思っています。 例えば、部長先生が以前作成した(働き方改革の観点から、決してこの日のために新しく作成することのないように)過去の指導案や、部員の先生方が過去作成された指導案を後日送って頂き、それをPDFにして、部長さんから部員さんに送っていただくことで、指導の引き出しを増やす。 そして、研究に対しての理解を深めた上で、8月の検討に迎えると、県の研究部会の意義が一つもてるかと思われまふ。
8月19日 統一研究日 夏季ゼミ後 11:00～12:00	各部会にて、作成した「新単元構想表」の検討	この時間以外の研究部会は各部会ごとに設定する。
必要に応じて	オンラインにて、各部会開催	部会を開催する1ヶ月程度前に研究総括および、主務者に連絡。 主務者は会長先生に連絡後、派遣依頼を作成。 派遣依頼を各部長から、部員に発出
1月初旬	機関紙「ぎふこくご」に掲載する「新単元構想表」を広報部に提出	
2月上旬	中国研ホームページに「新単元構想表」を掲載	
2月研究部総会	「新単元構想表」を総会にて共有 来年度の研究の方向の確認	
R5 5月総会	美濃大会授業者の先生(まだ決定していなければ、美濃大会実行委員の先生に、各部会の「研究構想図」および、「各部会で作成した『新単元構想表』」をお渡しし、研究の共通理解を図る	

令和4年度 夏季ゼミナールの日の計画（オンライン開催）

日時：8月19日（県統一研究日） 9：00～10：30

日時	活動内容	留意点
県統一研究日 8月19日 9：00～ 9：40	【全体会】（zoomによるオンライン開催） ホスト：主務者 伊藤 大会テーマ 「令和3年度実施 飛騨大会から学ぶ会 および 令和6年度実施 美濃大会における 新しい県大会のあり方を考える会」 【全体会】 ①中国研会長あいさつ ②夏季ゼミナール開催の趣旨の説明（主務） ③県中国研研究総括より、基調提案（小宅先生） ④飛騨大会実行委員より飛騨地区の取組についての紹介（熊崎先生） ⑤飛騨大会実行委員長あいさつ ⑥美濃大会実行委員長あいさつ ※全体会終了後、各自退室。 その後、分科会に各自で接続。	③④ は、飛騨大会で作成・発表したままのプレゼンを披露する。そして、時間や内容にイメージをもつことができるようにする。 ⑤ の大まかな内容 飛騨大会では、まさにコロナが猛威を振るった時代における県大会の一つの形を提案いたしました。しかし、「with コロナ時代」「after コロナ時代」も、全てを「before コロナ」に戻す必要はないと思います。美濃大会では、さらに一歩踏み込んで、本当に効率的で効果の高い県大会を求めて、リモートの移動なしの良さと授業を見たいという先生方のニーズの間をとって、どのような形の県大会がよりベストかをこの後の分科会でご意見下さいますよう、よろしく願いいたします。また、県領域部長を通して、今後の県大会のあり方を検討して参ります
9：40～ 10：30 （各部会ごとに解散） <u>この会の終了までを、夏季ゼミ扱いとする。</u>	【分科会】（zoomによるオンライン開催） ※ホスト 各領域部長 話す聞く：片山先生 書くこと：梅田先生 読むこと：北原先生 言語文化：河合先生 ①県領域部長研究構想の説明 ②飛騨地区の実践発表 ③意見交流 【意見交流の視点】 (1) 研究構想発表についての感想、質疑応答 (2) 次回美濃大会を実施するにあたって、どのような発表や会のもち方をしていくとよいか？	①② については飛騨大会で作成・発表したままのプレゼンを披露する。そして、時間や内容にイメージをもつことができるようにする。 【分科会】 は、左記の4つの部会に加え、「美濃大会実行委員部会」として、下記の6名のメンバーで引き継ぎの会を行う。 〈メンバー〉 ◆中国研 石橋会長 ◆永井美濃大会実行委員長 ◆美濃大会実行委員 ◆中西飛騨大会実行委員長 ◆熊崎飛騨大会実行委員 ◆主務者 伊藤
11：00～ 12：00	県中国研 研究部員による「新単元構想表」の検討	※この会は、夏季ゼミの扱いとせず、県領域部長と、県中国研の研究部員で実施します。

代議員の方々へお願い

各郡市で、各市の市教研と兼ねて（郡市全体として）参加希望のある代議員の方は、6月20日（月）17：00までに、下記 QR コードで申し込みをお願いいたします。Zoom の参加可能な人数のキャパシティがありますので、制限があることにご理解ください。7月1日（水）までに、登録頂いた QR コードに、参加申し込みをされた郡市的人数によって、当日参加可能な人数枠をお伝えさせていただきます。その人数枠の中で、どのような形で各郡市で実施をして頂くかをご相談ください。



↑夏季ゼミナール申し込みフォーム

令和4年度 第1回役員会及び代議員会・研究部総会計画

日時	活動内容	留意点
5月25日 (火) 15:00 ～16:00 ※ご指導を15分頂く。 ※各提案は3分程度 ※研究部は5分以内で提案を行う。	【全体会】(zoomによるオンライン開催) ホスト：主務者 伊藤 ① 会長あいさつ(石橋会長より) ② 主務者より(伊藤) ・令和3年度の振り返りと令和4年度の活動予定 ・夏季ゼミについて ③ 飛騨大会実行委員より(熊崎先生) ・飛騨大会のまとめ ・次回大会の引き継ぎについて ・夏季ゼミでプレゼンを披露して頂く方について ④ 総務より(上村先生) ・夏季ゼミの参加申し込みについて ⑤ 研究総括より(小宅先生) ・令和4年度の方角 ・研究部がどのようなものを機関紙「ぎふこくご」や中国研ホームページに掲載し、研究活動を還元していくかの提案 ⑥ 各領域の研究構想(各領域部長) ⑦ 「ぎふこくご」論文について(細江先生より) ⑧ 会計より(山田先生より) ・令和3年度会計報告と令和4年度予算案 ⑨ 情報部より(和田先生より) ・NHK放送コンクールについて ・中国研ホームページ外部委託の見通しと見積もり ⑩ 広報・編集部より(加藤先生より) ・令和4年度の「ぎふこくご」の割り当てについて ・「ぎふこくご」郵送についての連絡 ★ ご指導(岐阜県教育委員会 加藤尚子課長補佐より)	
16:00 ～16:30	【分科会】(zoomによるオンライン開催) ※ホスト 各領域部長 話す聞く：片山先生 書くこと：梅田先生 読むこと：北原先生 言語文化：河合先生 研究部総会 各研究部より (県領域部長のZoomアカウントで部屋をたてて行う) ① 領域部長の立てた令和4年度研究構想案について、研究部員からご意見を頂く ② 令和4年度の機関紙「ぎふこくご」や中国研ホームページに、どのような研究成果物を掲載していくのか、その方向性を確認 各部会ごとに解散	・どのような研究構想で研究を行うと、よりニーズの高いものになるのか?について話し合う(どの学校でも・誰でもできる汎用性と効果の高い実践とはどのようなものか?) ・機関紙「ぎふこくご」や中国研ホームページに、どのような研究成果物を出していくのかや、その詳細の分担や見通しを明らかにする。

令和4年度 中国研年間活動計画

日時	活動内容	留意点
5月10日	第1回 中国研役員会	※オンライン開催
5月25日	第1回 代議員会および研究部総会 【内容】 ①中国研会長あいさつ（中国研会長） ②本年度の活動計画提案（主務者） ③飛騨大会の振り返り（熊崎先生） ④夏季ゼミについて（総務） ⑤令和3年度の研究について（研究総括） ⑥各領域の研究構想（各領域部長） ⑦「ぎふこくご賞」論文について（研究副総括） ⑧令和3年度会計報告及び令和4年度予算案（会計） ⑨NHK放送コンクールについて（情報） 中国研ホームページ外部委託の見通しと見積もり ⑩機関紙「ぎふこくご」について（広報・編集） ★ご指導（岐阜県教育委員会 加藤尚子課長補佐）	※オンライン開催
各部会で部長が集約（随時）	指導等の授業資料を主務者・情報部にメールで送付	メールアドレス yukiito333@hotmail.com
7月下旬	NHK放送コンクール岐阜県大会審査会	
8月19日 （統一研究日） 9:00～10:30 中国研 夏季ゼミナール	「中国研夏季ゼミナール」（オンライン開催） 内容 「令和3年度実施 飛騨大会から学ぶ会」 【全体会】 ①会長あいさつ ②夏季ゼミナール開催の趣旨の説明（主務） ③県中国研研究総括より、基調提案（小宅先生） ④飛騨大会実行委員より飛騨地区の取組についての紹介 ⑤飛騨大会実行委員長あいさつ ⑥美濃大会実行委員長あいさつ 【分科会】 ①県領域部長研究構想の説明 ②飛騨地区の実践発表 ③意見交流	※オンライン開催 【分科会】は A「話す聞く」、B「書く」 C「読む」、D「言語文化」 の4つの部会に加え、 E「美濃大会実行委員会部会」 として、下記のメンバーで引き継ぎを行う。 ◆中国研 石橋会長 ◆永井美濃大会実行委員長 ◆美濃大会実行委員 ◆中西飛騨大会実行委員長 ◆熊崎飛騨大会実行委員 ◆主務者 伊藤
8月19日 11:00～12:00 研究部各部会	研究部各部会 各部会にて、作成した「新単元構想表」の検討	※夏季ゼミ後の11:00～12:00に 研究部会を実施 ※出席者は県研究部員及び研究部長
12月下旬	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆活動（主務者・研究総括・研究部長・各部会が実践報告）	
1月10日 17:00	「ぎふこくご」賞 締め切り	
1月中旬 役員会	第2回役員会 ☆令和4年度の活動の方向の確認	※オンライン開催 ※「ぎふこくご賞の審査」も同日実施
2月初旬	第2回 代議員会（第1部） ①令和4年度の活動報告 ②ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ③令和4年度の代議員引継ぎについて ④各担当より、令和4年度の活動の振り返りと令和5年度の活動の方向の提案 ⑤ご指導 第2回 研究部総会（第2部） ① 研究総括より （来年度の研究部員継続のお願いと確認） ②各部会ごとに美濃大会に向けての準備	※オンライン開催 ※機関紙「ぎふこくご」は郵送にて送付。

飛騨大会のまとめ —美濃大会に向けて—

飛騨大会実行委員 熊崎

1 飛騨大会の成果（○）と課題（▲）

主張点①「各校の生徒に育成すべき資質・能力の位置づけ」に関わって

○学校ごとに決め出している「育成すべき資質・能力」を国語科の単元構想図にも明記し、授業者が意識して授業を行うことをねらった。「育むべき資質・能力」を明記したことで、授業者が常に意識することができ、これまでのように国語の力のみでなく、主体的に関わったり創造したりする力の育成にもつながった。

主張点②「新教科書による授業の具体」に関わって

■学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発

○総合的な学習の時間と関連づけた言語活動を設定したり、単元の導入で生徒が「やってみたい」「課題を解決したい」と思える工夫をしたりすることで、学ぶ必然性を感じさせることができた。

■「主体的・対話的で深い学び」となるための指導の工夫

○課題追究場面で、一律な学習形態にするのではなく、生徒一人ひとりが自身の課題を解決するために追究方法を選択し、対話を通して課題解決ができることを大事にした。追究場面で「個別最適な学び」を重視し課題方法を選択できるようにしたことは、生徒の主体的な学びにつながった。

主張点③「3つの柱で整理された評価の在り方」に関わって

○生徒自身が自己の高まりを実感することができるよう、毎時間の評価を生徒自身が見られるよう単元を通してシートを活用したり、単元はじめての自分の考えと比較したりする活動を位置付けた。また、新しく三つの窓で整理された評価基準を単元構想図および本時の指導案の中に示した。特に、本時の指導案には、何によって評価するのかを具体的に示した。

▲評価の場や評価方法についての検討が不十分だった。特に、「学びに向かう力」をいつ、どのような方法で評価すればよいのかなど課題は多い。

2 美濃大会に向けて

- ・オンラインでも十分実施可能。オンラインでの打ち合わせを重ねる中で、距離を超え、親近感を感じながら進めることができた。今後、うまくオンラインを取り入れることで、へき地校を含む県内全ての国語科教員が「オール岐阜」という意識で更に深く研究を進めていけると考える。
- ・働き方改革等を踏まえ、県大会をスリムにするという意識は継続したい。
- ・授業が見たかったという意見を多くもらった。飛騨大会ではプレゼンに授業の一部を載せる方法をとったが、授業の動画をもう少し流すなど工夫できるとよい。
- ・言語文化はすべての領域に関わるので、言語文化部会の研究を進めることにたいへん苦勞した。これまで「話す聞く」「書く」「読む」「言語文化」の4つに分かれて研究を進めてきたが、学習指導要領が新しくなったこともあり、そもそも領域という枠組みを見直すことも必要かもしれないと感じた。

夏季ゼミ プレゼン担当者

飛驒大会実行委員 熊崎

部会	担当者	立場	所属
話す聞く	新井良太	飛驒大会授業者	高山市立国府中学校
書く	荒井貴行	領域部長	高山市立久々野中学校
読む	上條亘	領域部長	下呂市立下呂中学校
言語文化	西岡隆行	領域部長	高山市立北稜中学校

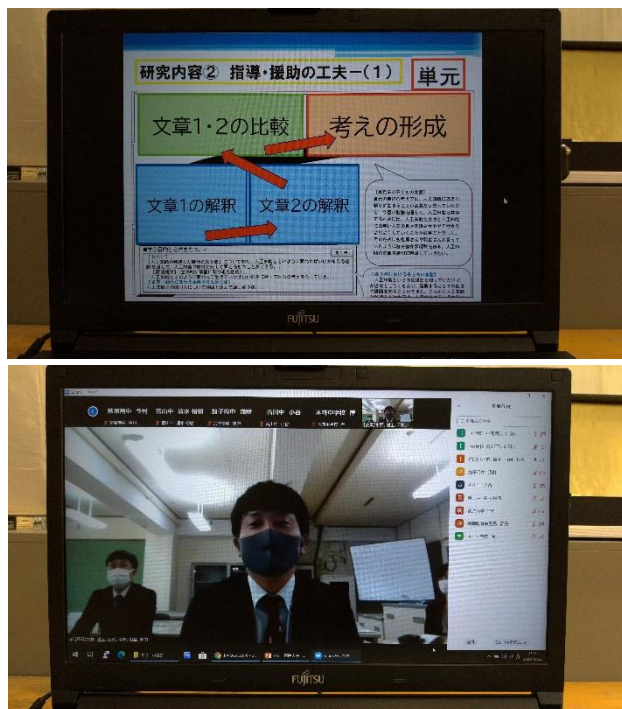
話す聞くの領域部長である志洞功先生が異動しました。
その関係で、授業者の新井に変更されています。

飛騨大会の振り返りと令和4年度の方角

垂井町立不破中学校 小宅陽久

1. はじめに

昨年度実施された「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」は、初めてのリモート開催となりました。これまでの当たり前が通用しないなかで、どのように研究を進めていけばよいか苦心した一年でしたが、県の領域部長と飛騨地区の領域部長、授業者が、指導案や実践発表の検討を何度も実施し、飛騨地区の生徒のために、授業や発表をよりよいものにしていくことができました。「どうすればうまくいくのか」、「今、すべきことは何か」、「生徒に力を付けるためにはどのような手立てが有効か」ということについて、大会運営、研究に携わる全ての先生が、アイデアを出し合い、当日に向かっていくことができました。これは、今年度の中国研の大きな財産となりましたし、中国研のニューノーマルを全県に提案できたと思います。大会後にいただいた感想では、「県の構想を受け、飛騨地区が歩みを進められたことがよかった」、「これまでの取組が今回の大会につながっていることがよく分かりました」、「飛騨地区の国語科の皆様の心意気と、素晴らしい結集力を感じる発表でした」などのお言葉をいただきました。また、各領域では次のような成果が上がりました。



- 授業を構想するにあたり、「テーマの設定」が重要な要素となることを飛騨地区の先生方と共有し、話し合いのテーマについて工夫をすることができました。さらにテーマを設定する際は、議論の後まで見据え、十分にテーマを吟味する必要があることを学ぶことができました。(話す・聞く)
- 「寝屋子プログラム」という、学校独自の活動を題材に言語活動を設定し、「寝屋親さんに納得してもらう意見文を書く」と、相手・目的を明確にしたことで、生徒に書く必然を生み出すことができました。単元を通して、継続して相手・目的意識に立ち返りながら、言語活動に取り組めるよう単元を仕組んだことで、生徒の課題意識を継続させながら、生徒が身に付けた力を活用して言語活動に取り組むことができました。(書く)
- 研究内容2において、学習形態の工夫を集団活動や個人活動、精査解釈や内容理解など、学習内容のバリエーションと捉えることで、「考えの形成」に至る生徒の意識を連続させた単元構想を行うことができました。(読む)
- 授業者が、事前に着目させたい言葉を軸にして単元や単位時間の授業を構成することによって、生徒も単元の終末に向けて構造的に読解していこうとする力をつける一助となりました。(言語文化)

これまで中国研が創り上げてきた研究のつながりを大切にしながら、新しい研究、新しい時代に対応し

た授業実践の在り方を模索していきたいと思います。各領域の部長から、今年度の成果と課題、次年度への方向性を伺っております。飛騨大会を終えた今、成果と課題をまとめ、研究部として、次への一步を踏み出したいと思います。

2. 具体的な方途

- (1) 全体研究構想を受け、各部会で重点を決定し、実践を進めていく。
- (2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。※新単元構想表の活用

(1) 全体研究構想を受け、各部会で重点を決定し、実践を進めていく。

平成29年度の「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会（岐阜大会）」、令和3年度10月に行われた「岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨地区大会」を経て、各部会で成果と課題が明らかになってきています。新学習指導要領への全面移行（新しい評価）、新しい教科書となり、岐阜県内の中学校に勤務されている国語科の先生方は、「具体的にどう授業し、生徒に『生きてはたらく言語能力を身に付けさせるのか?』『具体的に、『何を』『どのように』評価するのか?』ということを知りたいと思ってみえると思います。国立政策教育研究所から、令和元年6月に出された、「学習評価の在り方ハンドブック」に、概要や方法は書いているのですが、「でも、実際に国語の授業はどうすれば・・・?」というのが本音だと思います。そこで、県の領域部長、研究部員を中心として、部会の重点に向かって実践を進める1年にしたいと思っています。詳細については、領域部長の先生から「令和4年度の方角」をご説明いただきます。

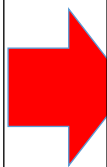
(2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。※新単元構想表の活用

前研究総括（現主務）の伊藤先生から以前にこのようなご提案がなされています。

令和元年11月14日・15日に、六本木ヒルズおよび、東京都港区立広陵中学校で行われた、「第48回全日本中学校国語教育研究協議会 東京大会」「第62回 全関東地区中学校国語教育研究協議会 東京大会」に参加させて頂きました。この中で、私がもっとも感銘を受けたのは、広島県立広島中学校の積山昌典教諭の実践です。積山先生は、令和3年度全面実施の学習指導要領の専門的作業等協力者を務められた方です。積山先生は、「走れ！強右衛門 描写を工夫して物語を書く」の教材にて、「主体的に学習に取り組む態度」を、次のような手順で評価を行われました。

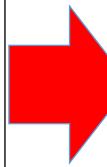
第2時

作品の中で、「アンダーラインを引いた記述」と「表現の意図を記したコメント」との対応を確認することを中心に評価。



第3時

「クラスメイトと協議しながら文章を遂行する中で、描写を工夫して作品をよりよくしている姿として捉え、生徒の活動を観察することで評価。



第4時

「クラスメイトと協議した内容を踏まえ、表現の効果などを確かめて鳥居強右衛門のエピソードの一場面の作品を整えた姿」として捉え、生徒の作品を分析することで評価。

私は、積山先生のご実践から、具体を学び、同時にこのような経緯で、「具体的にどうやって授業をするといいの?」「どうやって評価するといいの?」を明確にするべきだと考えました。中国研として指導事項に、指導計画と評価計画を組み込んだものを作成し、実践を示して行くことが大切だと思っています。

このような経緯と、岐阜県内の先生方の実態を踏まえ、「新単元構想表（仮称）」を活用した、指導計画を各部会で作成し、ホームページアップをすることで、岐阜県下の先生が閲覧し、ご自身の授業に取り入れたり、アップされているものを原案として改善したりしていくことで、よい実践が広まっていくと考えます。現在、ホームページには「全国大会」「飛騨大会」の指導案、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています。そこに、さらに実践が追加されていくことで、「全国大会」「飛騨大会」の成果をさらに深め、広げていくことができると思っています（積山先生の許可はいただいております）。

新単元構想表
(ver.3.0)

学 → 1 2 3 領域 → A B C
 言語活動 → ア イ ウ 他 指導事項順

2022/1/11 11:20
 第1学年 単元名：「空中ブランコ乗りのキキ」
 指導者：安芸備後中学校 教諭 川内 太郎

言語活動例		学年	領域	記号	言語活動	学習活動	評価規準	学習点 他	所
導入（学習への見通し）					をキキやウロロの立場で物語の空白を埋める挿話	本単元の学習のねらい（言語活動）や本単元に付いた学習・能力について知る		【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する	①
構造と内容の把握									
文章の中心となる部分と付加部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。									
構造と内容の把握						・全文を通読し、「空中ブランコ乗りのキキが四回音返りに挑む目的の半面からクオースへの期待の裏面に不協和があること」に気づく。 ・半面に四回音返りの書体が出されてから、クオースに因縁やウロロの口が、キキの四回音返りにもうとするとある部分の場面を埋める空白の時間について捉えること。		【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する	
語彙・構文						・「半面に四回音返りの書体が出されてから」の部分とクオースに因縁やウロロの口が、キキの四回音返りにもうとするとある部分の場面を埋める空白の時間について捉えること。		【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する	
語彙・構文						・物語の空白時間におけるキキとウロロの思惑を、捉えた内容を基に、モニローグの形でもとめ、交流する		【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する	②③④
考えの形成									
まとめ（学習の振り返り）						・キキやウロロの心情の変化を捉える中で考えたことを、「命よ大樹なものはあるのか」というテーマで短編文章にまとめ、交流する		【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する	⑤
						ロこの単元に添付した力について振り返りシートに記入する		【語】単元の学習は、「語」の作業を数回し、単元全体を通しての振り返りを行う。 ※【振り返りシート】であることを確認する	
関連する[知識及び技能] (1)言葉の機能や使い方に関する事項 (2)指図の扱いに関する事項 (3)語の国の言語文化に関する事項					1年 (1) ウ	文章や行書、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使うことを通じて、語彙を語を語を量にすること。	・キキやウロロの心情の変化を捉えることを通じて、心情を表す語句の量を増やしている。【記述の確認】	【語】読書教材である『オオカミのともだち』の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する。	
					1年 (1) オ	比較、反復、例示、排他止めなどの表現の技法を捉えて使うこと。	・空中ブランコを行うキキの描写を通して、比較表現について理解している。【描写の確認】	【語】キキやウロロの物語を捉える活動の中での発言を確認することによって評価する。	
学びで向かう力、人間性等に関する評価 （主体的に学習に取り組む態度）						・物語を創作することを通して、登場人物のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。【活動の確認】	【語】単元全体を通して、学習活動を振り返って評価する。		

※【学習点 他】の記号は（語）指導に当たっての学習点、（評）評価に当たっての学習点、（他）他の学習活動のアイデア、（教）教科・教員の工夫

新単元構想表
新指導事項
評価規準(現行)
Sheet3
+

※使い方については、別紙「単元構想表作成シート（ver. 3.0）取説」を参照してください。

【令和4年度 実践の流れ】

- ① 各部会の重点を踏まえ、研究部員が実践を行う。
 - ② 新単元構想表を活用し、実践をまとめる。
 - ③ 各部会で実践の内容を検討、修正する。
- ※1年間の学習内容を網羅的に分担して作成するのではなく、各研究部員が実践する単元を決定する。
- ④ 完成したものを年度末に「ぎふこくご」ホームページにアップする。
- ※ホームページにアップするのは、新単元構想表。別添資料として指導案や学習プリント、板書等をアップしてもよい。

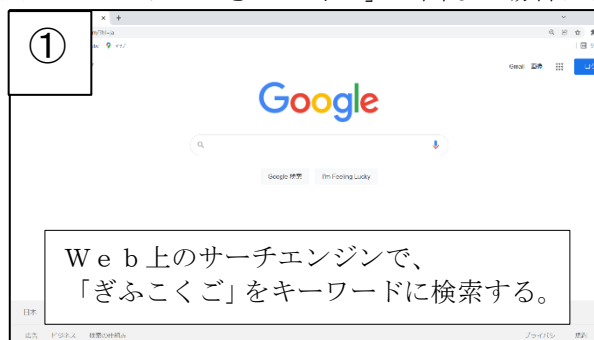
（３）「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

次の美濃大会に向けて、研究部ができることは、「実践例を積み重ねながら指導法を工夫・改善し、深めていくこと」「再現性の高い実践を広めていくこと」ではないかと考えました。そのために、今年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、ホームページにおける情報提供を推進していきます。

【閲覧の手順】

※キーワードが「ぎふこくご」で出ない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。

①



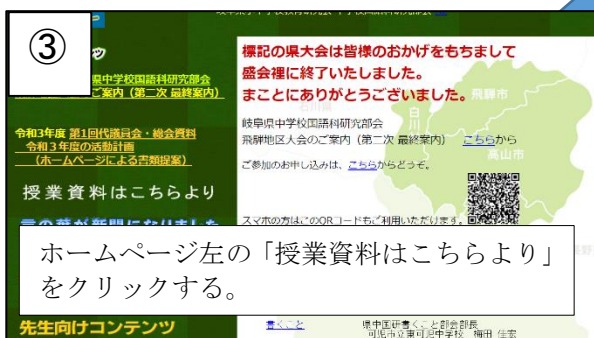
Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索する。

②



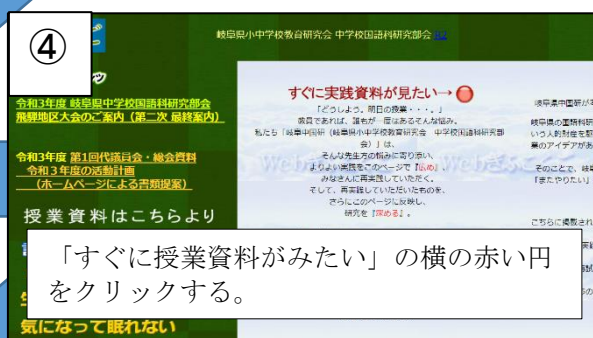
「ぎふこくご」でホームページにアクセスする。

③



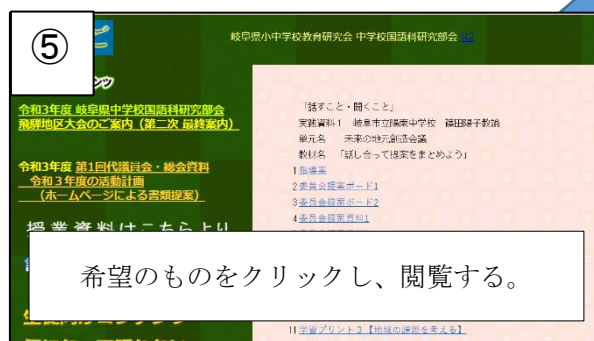
ホームページ左の「授業資料はこちらより」をクリックする。

④



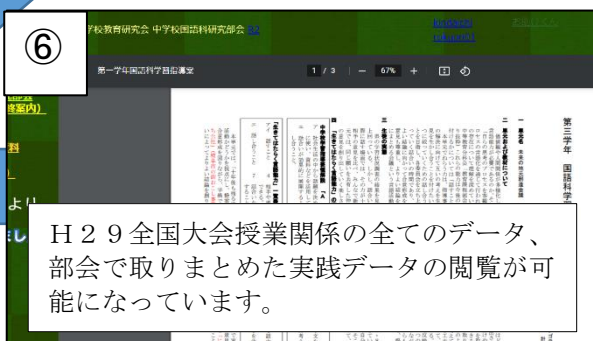
「すぐに授業資料がみたい」の横の赤い円をクリックする。

⑤



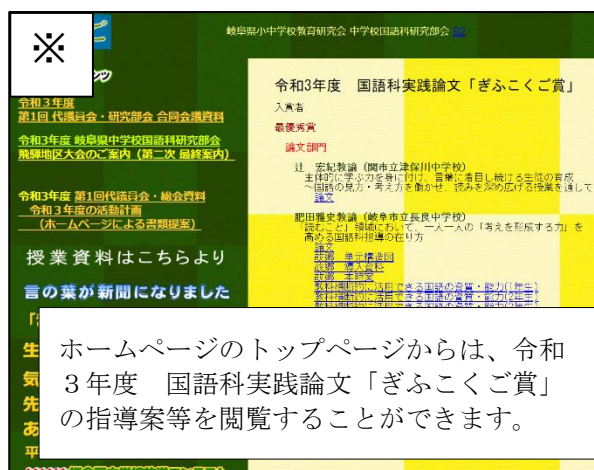
希望のものをクリックし、閲覧する。

⑥



H29 全国大会授業関係の全てのデータ、部会で取りまとめた実践データの閲覧が可能になっています。

※



ホームページのトップページからは、令和3年度 国語科実践論文「ぎふこくご賞」の指導案等を閲覧することができます。

⑦



飛騨大会の指導案、県中国研の全体研究構想、各領域の研究構想の閲覧が可能になっています。

単元構想表作成シート（ver. 3.0）の公表について

国語教育実践改革会議(広島支部)

指導事項に示された資質・能力を子供たちに確実に身に付けさせるために、先生方の負担を少なくするために、今回の改定では5つのポイントを意識しました。

ポイント2：ボタンで表示させた後でも、「学年」「領域」「記号」が動かせる！たとえば、2年生の3学期に、「〇〇の指導事項だけ3年生でやってみよう」、「領域をまたいだ指導をしてみよう」といったことにも対応！

ポイント3：今回の改定では、カテゴリー名も併せて表示。

ポイント4：〔知識及び技能〕との関連はリストで選択して表示！

ポイント1：「学年」「領域」「言語活動例」「指導事項順」のボタンを押せば、指導事項が表示されます！（今回の改定では、どの順番に押してもOK！）

2018/12/11 8:27

(第1学年) 単元名：「空中ブランコ乗りのキキ」
指導者：虎ノ門中学校 教諭 川内 太郎

学年 1 2 3 領域 A B C 言語活動例 ア イ ウ 他 指導事項順

中学校国語科
単元構想表 (ver.3.2)

言語活動例		学年	領域	記号	言語活動	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
学	領	年	域	号	指導事項					
1	C	1	年	ウ	導入（学習への見通し）	をキキやロロの立場で物語の空白を埋める挿話	本単元の学習の流れ（言語活動）や本単元で付けた資質・能力について知る。		(指) 既習教材である「オオカミのともだち」の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する。	①
1	C	1	年	ウ	構造と内容の把握					
1	C	1	年	ウ	文章の中心部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。					
1	C	1	年	ウ	構造と内容の把握					
1	C	1	年	ウ	構図の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。					
1	C	1	年	ウ	精査・解釈					
1	C	1	年	ウ	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。					
1	C	1	年	ウ	精査・解釈					
1	C	1	年	ウ	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。					
1	C	1	年	ウ	考えの形成					
1	C	1	年	ウ	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを他者のものにすること。					
まとめ（学習の振り返り）										
関連する〔知識及び技能〕										
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項					1	(1)	ウ	対象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の詩的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	・キキやロロの心情の変化を描写を基に捉えることを通して、心情を表す語句の量を増している。（記述の確認）	(評) 教科書への書き込み内容を中心に評価する。
(2)情報の扱い方にに関する事項					1	(1)	オ	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使うこと。	・空中ブランコを行うキキの描写を通して、比喩表現について理解している。（発言の確認）	(評) キキやロロの挿話を作成する活動の中での発言を確認することで評価する。
(3)我が国の言語文化に関する事項					1	(1)	オ	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使うこと。	・挿話を創作することを通して、登場人物のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方・考え方を広げようとしている。（活動の観察）	(評) 単元全体を通して、学習活動を観察して評価する。
あひまに向かうカ、人間性等に関する評価（主体的に学習に取り組む態度）										
語彙										
表現の技法										
〇この単元で身に付けた力について「振り返りシート」に記入する。									(指) 単元の最後は、「個」の作業を設定し、単元全体を通しての振り返りを行う。 *（振り返り＝感想）であることを徹底する。	

色がついていないセルには、何を入力してもらっても構いません。
あなただけの単元を描いてください！

All Clear

ポイント5：最初からやり直す時には、「All Clear」！

指導事項から授業を作ることで、子供たちが輝く国語教室を実現させましょう！



※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に對しての留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫

令和4年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は65%となっており、全国の平均正答率（64.6%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒は1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きだ」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、19.6%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、30.4%である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査でも、同じような傾向が出ており、近年の岐阜県全体としての生徒の実態は上記のように捉えることができると考えている。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) 実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた新単元構想表（仮称）の作成
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力（指導事項）』とは何か」を明確にした上で、指導事項と単元指導計画を組み合わせた指導計画を作成する。
 - ・教員誰しもが見た時に、「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い指導計画を作成する。
- (2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・講義式の学習だけでなく、「生徒相互」「教材との対話」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。（対話の種類の研究）
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。また、ICT（タブレット端末等）についても、国語の授業における効果的な活用法について提案していきたい。（対話の方法の研究）
 - ・作文の授業を例にとると、「〇〇という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、二つのモデル文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような、「発見的な学習をするスタイル」を目指すために、どのような学習過程をとると良いのかを研究する。（課題解決の方途の研究）
- (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にするなど、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった・できるようになった（読み取りにおける考えの広がり、深まり等）」・「前よりよくなった（作文、スピーチ等）」という実感をもつことができる場を工夫し、自己の高まりを自覚できるようにした上で、次時への意欲を喚起することで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。
- ・上記のような評価の場を、単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかを研究し、提案する。

A 話すこと・聞くこと部会 令和4年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

1 今年度の研究方向

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和4年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」という思いを抱き、指導事項を効果的に身に付けさせることのできるテーマの設定を工夫することで、生徒は主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた「生きてはたらく言語活動一覧表」の作成
 - ・指導計画の段階で、指導事項をより具体化して、系統性を踏まえながら「この単元でこそ身に付けさせるべき力」を明確にする。
 - ・生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという生徒の具体的な姿を明確にする。
- ②生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力や必然のあるテーマ設定を考える。
 - ・言語活動が必然のあるものであり、今後社会生活でどのように生きるかを生徒と教師とで共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「目指すべき姿」が生徒にとって明確になるような効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
 - ・タブレット端末等を用いた自己評価や、仲間との交流による相互評価の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・生徒の実態に応じて「苦手を克服するための手立て」はもちろん、「得意を伸ばす手立て」も工夫する。

(3) 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。（一人一台端末の効果的な活用）
- ②生徒が、単位時間や単元の最初の頃の自分と比較し、自己の高まりを感じられるような評価の「場」と「方法」を工夫する。

B 「書くこと部会」 令和4年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、**実生活に生かそうとする姿**

令和4年度 「書くこと」部会 研究主題

相手、目的や意図、場面や状況に応じて、 考えが伝わる文章を書く能力の育成 ～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、**生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。**
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、**生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。**
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、**生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。**

(1) 指導計画の工夫

- ①指導事項と指導計画とを組み合わせた「生きてはたらく言語能力」の一層の明確化と、「中国研ホームページ」を活用した情報共有による授業の汎用化の推進
 - ・育成したい資質・能力を明確にして、評価基準を達成した生徒の姿を具体的に思い描く。
 - ・実践した資料等を、**ホームページで県全域に広げ、どの学校でも実践を活用しやすくする。**
- ②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫
 - ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動を工夫する。
 - ・**誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える題材や言語活動を工夫する。**

(2) 指導・援助の工夫

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
 - ・**I C T**を効果的に活用したり、ペアや小集団等の学習形態やその編成等を工夫したりする。
 - ・**単元や単位時間で働かせたい見方・考え方を明らかにして**、論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習過程を位置付ける。
- ②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、個に応じた指導・援助の充実
 - ・予想される生徒の困り感を解消するための、モデル提示や指導・援助の方法を考える。
 - ・自力で評価基準に達すると想定される生徒が、よりよい表現を工夫できるような指導・援助の方法を考える。

(3) 評価の工夫

- ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方
 - ・生徒が自分自身の**思考や判断の過程**、**考えや成果物の変容を捉えて言語化する**場を設定する。
 - ・教師にとっても生徒にとっても明確に変容を捉えやすい評価の方法を工夫する。

C 読むこと部会 令和4年度の研究の方向

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和4年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和4年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

(1)指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

(2)指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3)評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的に設定する場の設定
- ②単元で身に付けた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

言語文化部会 令和4年度の研究方向（案）

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常生活や社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

《研究内容》

①「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

②「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の語句の意味の定着）

- ・ 主体的に言葉の知識を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割、意図に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語句語彙の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

令和4年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

＜趣 旨＞ 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

＜観 点＞

- ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
- ・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

＜主 催＞ 岐阜県中学校国語科研究部会

＜募集領域＞ 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

＜募集部門＞ ○論文部門 ○ダイジェスト部門

＜応募資格＞ 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

＜形 式＞

- ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
- ・論文部門のページ数は自由。

ダイジェスト部門は指導案や資料＋A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

＜応募先＞ 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したのと同じものでも結構です。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

＜応募締切＞ 令和5年1月10日（火）17：00必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



(令和3年度)

収支決算書

部会名	岐阜県中学校国語研究部会	部会No	10
部会長 支部長	石橋 佳之		

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	278,380	287,060	287,060
補 助 金	0	100,000	100,000
雑 収 入	656	1	1
繰 越 金	133,964	133,964	133,964
計	413,000	521,025	521,025

(支出)

事業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当 初 予 算	更 正 予 算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印刷製本費				0	0
	通信運搬費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	貨 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費	252,000	250,067	0	252,000	250,067
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費	2,000	2,000	0	2,000	2,000
	食 糧 費				0	0
	印刷製本費				0	0
	通信運搬費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	分 担 金				0	0
	助 成 金				0	0
	積 立 金				0	0
	小 計	254,000	252,067	0	254,000	252,067
図書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印刷製本費	159,000	217,668	217,668	△ 58,668	0
	通信運搬費	0	51,290	51,290	△ 51,290	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	159,000	268,958	268,958	△ 109,958	0
総 計		413,000	521,025	268,958	144,042	252,067

(令和4年度)

予 算 書

部 会 名	岐阜県中学校園路研究部会	部 会 名	岐阜県中学校園路研究部会
部 会 長 名	石橋 佳之	部 会 長 名	石橋 佳之

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	287,060 円	620円×463人
大会助成金		
雑 収 入	873	
繰 越 金	252,067	
合 計	540,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印刷製本費	円 × 部 = 0
	通信運搬費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	小 計	0 円
研究調査事業	貸 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	1400 円 × 90 人 × 2 回 = 252000
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	6,000
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印刷製本費	円 × 部 × 回 = 0
	通信運搬費	
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	分 担 金	
図書	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
研究成果刊行事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印刷製本費	212,000 400 円 × 530 部 × = 212,000
	通信運搬費	70,000
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
合 計	小 計	282,000
	合 計	540,000 円

令和4年5月__日

県内各中学校長 様
県内各特別支援学校長 様

岐阜県小中学校教育研究会
中学校国語科研究部会
会 長 石 橋 佳 之

令和4年度 第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会について

薫風の候 貴台におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、本会の活動に御理解と御高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年度も、標記コンテストの事務を本会が担当し、別紙「令和4年度 第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定」に基づき実施することとなりました。

ついては、貴校の担当者に周知いただき、積極的な参加について御高配賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

岐阜市立本荘中学校	伊藤雄樹
電話	058-251-3450
F A X	058-251-3451
Email	: gichu03@honjyo-j.gifu-gif.ed.jp

第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定

1 目 的

情報化社会に生きる中学生の、豊かな人間性の育成をめざし、中学校の特色ある教育活動の中核となる校内放送活動および放送教育の充実・発展をはかる。

2 ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 番組制作を通して、今後の校内放送活動の充実・発展をはかる。
- (3) 中学校生活の中に、うるおいを育み、教師と生徒の心のふれあいの場をつくる。

3 主 催

全国放送教育研究会連盟，NHK，NHKサービスセンター
岐阜県小中学校教育研究会中学校国語科研究部会

4 後 援

文部科学省

5 審査日

令和4年7月__日（ ）〔CD・DVD審査〕—— 非公開

6 コンテストの各部門

- (1) アナウンス (2) 朗読 (3) ラジオ番組 (4) テレビ番組

参加の詳細については、各校に配布される「第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を参照のこと。なお、以下のアドレスに関連情報が掲載されている。

放送コンテストについて https://www.nhk-sc.or.jp/kyoiku/ncon/ncon_j/index.html

参加規程について https://www.nhk.or.jp/event/n-con/assets/pdf/39_guide.pdf

◆朗読部門指定作品

【課題】次の指定作品のうち、1編をえらび、自分の表現したい部分を決め朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。翻訳作品は、必ず指定された訳者による本を使用すること。

《指定作品》

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ①『新編 銀河鉄道の夜』 | 宮沢 賢治 著（新潮文庫） |
| ②『翔ぶ少女』 | 原田 マハ 著（ポプラ文庫） |
| ③『雨降る森の犬』 | 馳 星周 著（集英社文庫） |
| ④『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 | ブレイディみかこ 著（新潮文庫） |
| ⑤『キッチン』 | 吉本ばなな 著（新潮文庫） |
| ⑥『オー・ヘンリー傑作選』 | オー・ヘンリー 著
大津栄一郎 訳（岩波文庫） |

注意：（ ）内の出版社に限る。

①⑤⑥は選択した短編（作品）のタイトルを作品名として読むこと。

ただし、⑤に集録されている「満月ーキッチン2」は「満月」と読むこと。

①は平成24年4月改版のものに限る。

7 表 彰

- (1) 各部門の1位を最優秀、2位、3位を優秀賞または優良賞とする。ただし、審査により各賞において、「該当なし」もあり得る。
- (2) 全国大会への推薦は、全国大会の規定に基づき、その最大エントリー枠の中で行う。
(アナウンス6名・朗読6名・ラジオ番組3本・テレビ番組3本とする。)
- (3) 入賞作品には賞状および副賞を贈る。
- (4) 参加状況を考慮し、学校賞を贈る。

8 参加資格

- (1) 令和4年8月現在、以下の学校および各種学校に在学中の生徒であり、またその作品であること。
 - ① 中学校および中等教育学校の前期課程
 - ② 特別支援学校の各中学部
 - ③ 各種学校（修業年限が中学校と一致していること）
- (2) ラジオ番組・テレビ番組部門は、参加資格に該当する学校の生徒の創作、制作に限る。また、他のコンクールなどに参加した作品及び参加予定の作品の参加は認めない。
- (3) アナウンス・朗読部門は、同一人が両部門にエントリーすることはできない。
- (4) ラジオ番組・テレビ番組部門は、同じ学校から部門ごとに各1本までエントリーすることができる。
- (5) コンテスト参加作品の著作権は、制作者(応募した学校)に帰属する。その他、全国大会の規定2ページの8「参加資格、エントリー」の(8)を参照し、これに従うこと。

9 参加申し込み

◎以下の手順で、参加申し込みを行う。

(1) 参加を希望する学校は事前登録を行う。⇒ 令和4年7月15日(金) 必着

・参加を希望する学校は、「岐阜県大会参加登録用紙」に必要事項を記入し、上記期日までに中国研事務局担当者あて送付する。(FAX可)

(2) 参加校は、音源CD(テレビ番組部門においてはDVD)を作製し、中国研事務局担当者あて送付する。⇒ 令和4年7月21日(木) 必着

・このとき、原稿・台本(各1部)および録音・録画したCD・DVDを送付する。エントリーナンバーの欄は空欄とする(全国大会参加の場合に、岐阜県大会事務局で記入する)。

・原稿はホチキス留めをせず、折らずにA4版で提出すること。(全国大会参加が決定した場合、事務局にてホチキス留めをする。)

・各様式等については、4月に各中学校に配付された「第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」の掲載様式を使用すること。

・送付先(事務局)は以下の通り

〒500-8378

岐阜市雲雀ヶ丘1番地 岐阜市立本荘中学校 伊藤雄樹

電話(058)251-3450 FAX(058)251-3451

10 全国コンテストへの参加

優れた作品については、全国大会の規定に基づき、岐阜県大会事務局が全国コンテストへエントリーを行う。岐阜県大会への参加が全国大会参加の条件となるので、直接全国大会に申し込みをしないよう注意すること。

予選：2021年8月6日(土)、7日(日) ー非公開ー

決勝：2021年8月17日(水) ー公開(9:00~17:00)ー

※ 決勝の審査会場ー千代田放送会館2Fホール(東京都千代田区)

該当する学校には、岐阜県コンテスト終了後に連絡する。

11 その他

各部門の課題及び参加上の注意については、上記「第39回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を熟読し、失格とならないよう注意すること。

第 3 9 回 N H K 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加登録用紙

学校名	立 中学校
参加部門	【1】 アナウンス (名) 【2】 朗 読 (名) 【3】 ラジオ番組 (あり・なし) 【4】 テレビ番組 (あり・なし) ※上記【1】～【4】の () に必要事項を記入して下さい。 ※別紙「岐阜県大会参加規定」の8に留意してください。
担当者名	

F A X 送信先	岐阜市立 本荘中学校	伊藤 雄樹 宛
F A X 番号	0 5 8 - 2 5 1 - 3 4 5 1	

第39回 NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会

1. 日時 令和4年7月__日() 時～ 時
2. 会場 ZOOMによるオンライン会議 ホスト＝本荘中学校
3. 審査員

石橋佳之 (中国研会長)
____ (NHK岐阜放送局アナウンサー)
和田 光平 (中国研情報部長)
三村・宮田 (岐阜放送局企画・編成)
伊藤雄樹 (中国研主務) 司会

4. 進行

- | | | | |
|---------------------|----------|--------------------|-----------|
| (1) 開会 | 進行について説明 | 司会 | ZOOM機能を活用 |
| (2) 自己紹介 | | 各自 | |
| (3) 会長挨拶 | | 会長 | |
| (4) 審査についての説明 | | 司会 | |
| (5) 審査 | | 全員 | |
| (6) 表彰対象者、全国大会推薦者決定 | | 全員 | |
| | アナウンス部門 | 最優秀賞
優秀賞
奨励賞 | |
| | 朗読部門 | 最優秀賞
優秀賞
奨励賞 | |
| | 参加賞 | 全員 | |
| | 学校賞 | (応募数などを考慮する) | |
| (7) 全体講評・感想 | | ____アナウンサー | |
| (8) 閉会挨拶 | | 会長 | |
| (9) 退出 | | 各自 | |

5. 審査について

- (1) 審査員は、参加者一人読むごとに採点する。
- (2) 審査員は、読みの技能、その適否、場面などに応じているかなどを総合的に判断し審査する。
- (3) 得点は各自の判断によるので、基準がぶれないよう配慮する。なお、修正が必要な場合は申し出て修正する。
- (4) 都度、集計し、各部門とも上位3名程度を優秀賞・優良賞とする。そのうち1名を協議によって最優秀賞とする。ただし、該当なしもあり得る。また奨励賞を状況によって設ける。

6. その他

全国大会参加事務は、中国研情報部にて行う。

1 岐阜県大会開催日をNHK岐阜放送局担当者と協議の上、決定

同時にホームページにて告知

4 参加申し込み受付 7月21日(木)必着 「音源CD、原稿」の受付

6 岐阜県大会 7月 日()

8 岐阜県大会の結果通知 参加各校へ

10 費用精算 適宜

11 表彰状送付 該当校へ

12 大会結果の周知(ホームページ)

「ぎふこくご」No. 73 2023年2月 発行予定内容

◆《巻頭言葉》 会長 石橋 佳之

◆国語科教育への提言 西濃教育事務所教育支援課 馬淵 達也 先生

※これまでの流れ

No. 72 . . .	岐阜県教育委員会 学校支援課	加藤 尚子 先生
	→可茂教育事務所教育支援課	今井 則雄 先生
No. 71 . . .	なし	
No. 70 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	西門 純 先生
No. 69 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	富田 泰仁 先生
No. 68 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	山田 高秀 先生
No. 67 . . .	美濃教育事務所教育支援課	高橋 友之 先生
No. 66 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	藤根 隆 先生
No. 65 . . .	可茂教育事務所教育支援課	河合 広映 先生
No. 64 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	佐野 政紀 先生

◆令和4年度 各部会の歩み

・県中学校国語科研究部会の動き	主務者	伊藤雄樹
・研究部の歩み	研究総括	小宅陽久
・話すこと・聞くこと部	部長	片山博寿
・書くこと部会	部長	梅田佳宏
・読むこと部会	部長	北原章大
・言語文化部会	部長	河合のぞみ

※各研究部で考えていただいた研究の方向と指導案などをそのまま掲載できればと考えています。

◆令和3年度実践記録ぎふこくご賞（3名）の指導案

◆歴代のぎふこくご賞受賞者一覧

◆令和4年度県中国研役員，研究部員組織一覧

◆岐阜県中学校国語科研究部会会則

◆中学校教育研究会国語部会則

【広報部員】佐藤広恵（大垣市立西中学校）

【印刷業者】昭和ぷりんと Tel 058-294-8781 nrj00751@nifty.com

【原稿送り先】〒509-0106

岐阜県大垣市割田1丁目601-2 大垣市立西中学校 佐藤広恵

電子メール アドレス : nisichu@ogaki-city.ed.jp

※原稿は、ホームページにもアップしたいので、電子メールに添付をお願いします。

原稿依頼	11月初旬
原稿締め切り	12月中旬
原稿チェック	12月下旬
原稿を業者に提出	12月下旬
校正・原稿チェック	1月上旬
製本	1月中旬
配布準備	業者依頼
配布	2月上旬 代議員会

【役割分担】

原稿依頼や業者との連絡等は
佐藤がやります。

原稿チェックに主務、研究総括
の先生方、お力をお貸し下さい。